

折に触れ 四字熟語

NO. 337 『千載一遇』 せんざい いちぐう

< 意味 > 滅多に訪れそうもないよい機会。二度と来ないかもしれないほど恵まれた状態。

< 出典 > 『文選』王褒^{もんぜん}「四子講徳論^{おうほう ししこうとくろん}」

表 言 : 千載一遇のチャンスを逃す

用 例 : 行基の側も同様、すかさず千載一遇の好機を民衆の救いのために利用したのだと解釈している。<杉本園子・決断のとき>

語 釈 : 「載」は「年」に同じ。「一遇」は一度出会う。「遇」は思いがけず出くわす。千年に一度偶然訪れるくらいの機会という意味。

一 言 : 皆さんも長い人生の中で一度くらい「あの時が最大のチャンスだった」と悔やんだり、逆にうなずいたりする機会があったのではないかと思います。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」